滿洲日報

●洛陽と長安(下)

關野工學士の漫遊談

寶慶寺には唐の則天武后の長安年間に作つた石佛が夥しくあつて唐初技術の發達の形勢か研究されるの(昨年早崎梗吉氏も其の中幾何か持つて歸つて博物館へ陳列した筈である、城南の慈恩寺には大雁塔がある天下に名を揚げる事を雁塔に題すと云つた其の雁塔は即ち之れて壁間には大唐三藏聖經序を唐の太宗か選文して楮遂良が書いたものと高宗御選の聖經の序の記と二つか嵌めてある薦福寺には小雁塔かあつて大小雁塔共に唐時代の煉瓦て造つてある西安から南六七十哩に聳ゑて居るのは終南山て其間にある興敎寺內の玄奘三藏の塔は殊に珍らしいものてある西安から北渭水を渡つて左に漢の惠帝の安陵かあり猶ほ進んて涇河を渡ると三原に達する其の東北には唐太祖の永康陵高祖の献陵武宗の端陵敬宗の莊陵なとか散在してるし三原の西北には嵯峨山かあつて其の上の德宗の崇陵の前には莊大な石獅、石馬、石人か正面左右に幷列して居る數は石人十對石馬五對石鳳一對石龍馬一對石橋一對何れも見事なものた南に涇陽かあつて其處の文廟も亦た壯大を極めて居る西西北に進むと九嵕山かある唐の太宗の照陵之れ亦た珍とすへきものかあるのに山の高さか參五千尺山勢奇絕を極めてゐるから此邊の名所になつて居る絕頂には七十尺の橫坑かあつて棺を藏め其後にある唐太宗の愛馬六駿馬の石像抔は寫生的な頗る見事なもので中にも突厥か箭を拔ゐて居る圖を彫つたものなとは生色活躍して技術も精巧を極めたものた山上山下には公主功臣の陪塚か百七十餘も散在して其の廣さは三四里程に亘つて居る今殘つてるは長樂公主蘭陵の公主清河公主なと碑の方ては越國大碑紀國大碑なと功臣のては房元齡李勣李靖阿史那忠孔穎達外三十名か僅かに解る自分か此邊に行つた時は丁度大谷光瑞師か天幕を張つて三週間許り其邊の調査をして居たか堀出し物も少なくはなかつたらしい更に西西南に道を執つて乾州の北に梁山かある唐の高宗則天武后合葬の乾陵かあつて唐時代の帝陵の最も完全に殘つてる標本と見て良からう陵の下には高さ十尺の石獅かあつて其の前後左右には諸蕃酋の石像か六十餘軀左右に幷んで居る則天武后か唐の版圖の廣さを後世に誇る爲めに服從した蕃酋の像を揃へさせ背に互に其の名を書いて置いたものてあるか年も經ち戰亂か打續いたので頭のあるのか唯一つ丈け背中の文字なとは一も見られぬ其外にも石人石馬の類か澤山ある乾州から西醴泉を通つて東南に往くと周文王武王成王康王の陵周公大公望の墓かある中て文王武王のは建物になつて居る其外漢の元帝を始めとして周漢時代の墳墓が非常に多いが周時代のは方墳で漢時代のになると墳になつて居る文王武王の建物は何れも乾隆頃に作り直したらしい其處から今の咸陽へ來て渭水豐水を渡つて西安に戾り雲は秦嶺に橫ゐ秦嶺を超えて襄陽を經漢水を渡つて漢口に出つへき豫定てあつたか漢水の水か少なくて船か通はぬ爲に蘆漢鐵道で漢口へ出夫れから上海へ來て歸朝したのてある何分時日か短いので充分の研究を逐げられなかツたのは遺憾である(完)

●吉長鐵道の急施

吉林長春間三十二哩間の鐵道敷設に關しては淸國有司は之を政府の經營とする時は日本政府に於て爭議を提供するの顧慮あるを以て之を商民の施設に移す事に決し資金を四百万圓とし其半額二百万圓は既に調達せられ吉林省交涉局宗總辦氏主宰者となり致盡力する所ありて軌鐵枕木等の諸材料は悉皆吉林に集積しあり且沿道停車場の如きも實測を終りたる由なるか日露間の問題となれる寬城子停車場との接續點に就ては最初寬城子の東方なる二道溝と決定せしも近頃に至り更に之を延長し其南方に移したるやにて右接續點の位置は我南滿鐵道一部の盛衰に關して尠なからざる影響を及ぼすものあり從て淸國停車場の位置如何によりては日露談判に於ける寬城子境界問題とも大なる關係あり兎に角吉長鐵道の最終點は大に注目の値あるへきか偖て淸國か吉長鐵道の施設を斯く突然に急ぎ出したるに就ては大に理由ある事にて露國は該鐵道に就き大に放資せん事を希望し奮膽熊々將官を吉林に簡派して遊說せしめ一面には前記宗總辦と握手し隱然淸國人民の名義を用ゐて投資せん事を企たり然るに時恰も振貝子一行の觀察するありて貝子は宋總辦に密諭するに吉長鐵道の施設は露國豫てより注目する所而して日淸の密約に於ては淸國の資金缺乏せる場合には他國より資金を求めずして淸國と同額迄を日本より出資して共同經營とする事となれるにより中國獨力之を營むに非れは外交上紛糾を生するを免れす之れ淸廷の執らさる所なり因て日露兩國をして何れよりか容喙せしめさらむか爲め急速に獨力經營せさるへからす云云とのことを以てしたるにより宋は其意を承けて斯く迅速工事に着手せる次第なりと云ふ

●歐米と日本(上)

日本郵船會社副社長加藤正義氏は昨年五月十七日橫濱を解纜して歐米漫遊の途に上り去二十八日歸朝したり氏は往訪の客に對し大要左の如く談話せり

▲歐米人の注意 歐米の人士か戰後の日本に對して注意せるとは豫て余等の知れる所なりしか其の實際に接するに及ひては一層深く此感を懷かすんはあらす蓋し日淸役の捷利は寧ろ支那の弱きか爲めなりしとは彼等の多くか信せし所なりしも這回は世界の最强國を以て目せられし露國を破りたるを以て日本は眞に不可思議の新興國なりとの念彼等の腦裡に深染せしか故なり去れは彼の地に在住せる本邦人の動作は勿論內地の新聞雜誌偖ては地位ある紳士の一夕の談話すら響の音に應するか如く歐米の津津浦浦に至るまで傳播し隨つて是非の批評を受くるものなれは今後の日本人は此點に於て最も深き注意を拂はざるへからず

▲印度すら然り 現に余か歸途印度に立寄りし職務上取調の要件ありて孟買より約一千哩の山間に滯在せし時に東京の某會社の重役の演說か半月以內の短時日に同地方の新聞紙上に論評せられたり察する所演說者の旨意は其の會社の製造品か淸韓地方に限らす暹羅緬甸印度及ひ其の他の亞細亞諸國に販路を擴張するに至るへしとのことなりしならんも日本の勢力は全亞細亞洲を支配するに至る可しとの言ありし爲め彼等は非常なる驚愕の念を以て之れを噂し合へるの事實あり斯ることは五七年前には絕無のことなりしか今日にては日本に關する記事の爲め貴重なる紙面を割くを例とせり印度に於てすら尙且つ然り況んや歐米諸國に於てをや

▲定期航路の擴張 一國航路の擴張は結局海上に於る國家的勢力を夫れ丈け增大するものなるにより各國船會社は素より政府も亦之か後援をなして近來は特に盛んに其の擴張を謀り居れり去れは其の方面は單に歐米間と謂はす歐亞間と謂はす太平洋に亞弗利加に其の他全世界の各方面に向つて益益各自の航路線を伸長せんとに力め居れり元來航路のことたるや世間往往一局部を觀て以て直ちに立論するものなれとも之れ大なる誤にして此複雜なる問題に一朝夕に談論する能はさるなり去れと單に英米獨を始めとし各國各社ともに世界總へての方面に向ひ定期航路の擴張に熱心なりと謂ふに止めん

▲造船法 は必すしも近來の傾向として大形滊船而已を建造せんとするものにあらす由來諸會社は航行の方面を定めすして造船の注文をなすものにあらさるを以て其方面如何により船舶の形体を確定するものなり例へは太西洋航海には如何なる大船も可なれとも東洋航海には上海を始めとして多數の淺き港灣あり又船渠も大抵狹小なれは大船を向くる能はさるの事情あり且つ客室の間取りより謂ふも歐米間にありては三百位の一等客を收容し得る船舶適當なれとも亞細亞亞弗利加等の航路にありては寧ろ二三等客多きにより矢張り其の事情を酌量して之れを注文せさる可からす去れは之れ亦一概に評論する能はさるものなり目下英國のキユーナード滊船會社は太西洋航路に充てん爲め三万二千噸の巨船の建造中にて本年中には浮游すへき筈なり

春季雜題

二日灸障子の隙の風さむし　醉雨子
奉納の手拭わかしはるの水　古江生
藪入や母立つ見ゆる家の門　胡山
ぬれ柳燈火もれて光るなり　小僧
陽炎や新戰場の墓しるし　夢小僧
肅として五侯の門や春寒し　肱村
草餅の草摘む妻や家ちかみ　文雄
杵音のよし簀もるゝよ草の餅　しき女
男手の貧しき宿やくさの餅　木嬰
フウワリと海月うき見春の海　無一
朝はとて海苔てすますや獨者　千曲
うき氷水泡と共になかれけり　野梅

▲課題 蛙 桃の花 春夜 〆切三月末日
▲春期雜題 〆切なし

海島の秘密(第十四回)

三嶋霜川

女房は、まだ腑に落ちぬ顏で溢々してゐた

灘九郎は焦心込むで

「金の鳥だ、金の鳥だ、金の鳥が舞込むだんだ。」

金の鳥と聞いて、女房の夫を侮蔑むだやうな樣子が急に變つた。

「何んだえ?金の鳥だ……。」

「えゝ大きな聲をするない。」

灘九郎の背の老人は、身動もせずにぐつたりしてゐた。息だけは靜に通つてゐる。眠つてゐたのか、それとも死んでゐたのか

「何しろ、金をうんと持つてゐるんだから、そつのねえやうに介抱しなくつちや可けねゑ。さ、火を焚け、火を焚け、そして俺の着物の奪ッたけ持つて來い、此の方にお着せ申すんだ。」

此樣な鹽梅で、老人の尙だ氣の附かぬ間に女房は、圍爐裏に火を焚附けた。枯柴は、盛に燃上る。

灘九郎は、老人を、そつと圍爐裏の側へ卸して

「おい、お前さん、おい。しつかりしてゐなくつちや可けねゑよ。氣をゆるめては可けねえぜ。大丈夫だ、豚がしつかりしてゐら、安心しねゑ、此處が私の家なんだ。」

仁十郎は、微に眼を開いた。焚火の光を見て力なげに、うなづくのみだ、そして耐力も無く橫に轉げた。

灘九難は納戶へ入つて、何んといふ藥だか知らぬけれとも、大事さうに幾重にも紙に包むだ藥を持つて來てそれを仁十郎の口に含ませて、そして水を飮せた。仁十郎は、咽入りながら、やつと飮込むだ、それから仁十郎は少時身動もせずにゐた。灘九郎は氣遣はしさうに、幾度となく仁十郎の口へ手を當がつて見た。焚火は、どんどん燃えて仁十郎の體へ熱を通はした。熱が體へ通ふと、仁十郎は少しづゝ身動して、その度に少しづゝ潮を吐出した。

やがて二時も經つと、仁十郎は大分元氣づいて來た。眼を少し開けて其處らを見廻しながら

「おゝ助かつた。」

と、今更のやうに謂つて、「俺はまだ大事を抱へてゐる體だ、死にたくない、死にたくない。死んでは寶の在所が解らなくなつて了ふ。俺の一念だ、一念でも今は死なれない、死にたくない。」

とまるで譫言のやうに謂つてゐる。

寶といふ一言は、重く灘九郎の耳に響いた

「何んだ。寶の在所だ?。」

と呟きながら、熟と仁十郎の顏を瞶めた。

そして嚴重に其處らを見廻して、さて女房の顏を見て

「そら見ねえ、なー、金の鳥は、寶の在所だと有仰ら。」

と私語くやうに謂つた、此う謂はれると何んだか、女房の眼にも、此の老爺の体から金色の光が輝くやうに思はれる。

此の時仁十郎は、何うしたのか、妄と腕を振つてゐたが、やがて、その腕を懷中へ入れて、頻に懷中を探るのであつた。

「その懷中が、寶の在所かも知れない。」

と思つて、灘九郎も女房も、瞬もせずに、その手元を瞶めてゐた、懷中へ入れた手は、さて容易に出て來ない、灘九郎は、まだるツこくなつて

「と、何うしたんだ、腹痛でも來たのぢやねえか。」

仁十郎は、頭を振つた。そして尙もぢたばたして懷中を探つてゐて、やつと取出したのは彼の胴卷だ。顫へる手元を灘九郎へ突付けながら

「當座のお禮だ。取つて置いてお吳ンなさい、ほんの印ばかりた。」

灘九郎は、眼をきよろつかせて

「何んですえ、こりや……。」

と呆れた氣味て、頓に手が出ない。

誰だらう、雨戶の節穴から、人間の大きな眼が覗いてゐた。

資本金貳千四百萬圓
積立金壹千參百七拾萬圓
本支店出張所
横濱 神戶 東京 長崎 大阪
倫敦 里昂 紐育 桑港 布哇
孟買 香港 上海 漢口 天津
北京 大連 旅順 奉天 遼陽
芝罘 鐵嶺 安東縣 長春(寬城子)
横濱正金銀行 牛莊支店
(電話十番支配人室)(百八番事務室)

營口元神廟街二八六
本店 正隆銀行
電話 支配人室 三四一 事務室 二一〇
總經理人 深水十八

隆記洋行
西營口老爺閣東小紅樓西南側
西分店 電話 四二

一般患者の診療に應ず
往診入院隨時
院長醫學士 松井甚四郎
營口豊濟門街元營口醫院跡
營口同仁醫院 (電話八七番)

急告
今般當行市內運搬部を設け停車場と各倉庫及市內一般の貨物運搬を迅速確實に取扱可申候間多少に拘らす御用命の程奉希候
營口新市街南本街二丁目二九
松茂洋行市內運搬部 電話百四十二番

方外散人編
哈爾賓(案內) 定價卅錢

哈爾賓地圖 定價十錢

發行所 大連大山通二丁目 小林又七支

倫敦電報

●**日本公債の人氣**（九日發） 日本公債は發行されたり之れに對する倫敦の人氣は最も活潑にして遲くも三月十四日までには締切りに至るへし

●**清國對外感情**（仝上） 倫敦タイムスは同社通信員か北京より南清に旅行せし記事を掲け且つ說を爲して曰く清國人か外國人に對する感情は一般に融和して歐洲教育を熱望するに至りしは著しき事實なりと

伯林電報

●**國民議會議長**（七日發） 露國立憲民主黨員ゴロウ井ン氏は國民議會議長に選擧されたり

●**露國豫算の不足**（仝上） 露國政府の本年度豫算は壹億壹千壹百萬留の不足を生したり該不足は借用遺繰を以て補塡するに至るへし

●**獨乙內相の渡米**（仝上） 獨國內相フオン、ボツドスキー伯は本年秋期を以て視察の爲め米國に趣く筈なり

●**英國在野黨の反對**（仝上） 英國保守黨首領バルフオア氏は議會に於て首相バンナーマン氏か武備撤去問題を海牙平和會議に提出すへしとの主張に對し強硬なる反撃を爲せり

東京電報

●**殉難志士行賞**（九日發） 戰役中重大の任務を帶ひて敵地に入り横死を遂けたるもの左の如く御沙汰ありたり

叙勳五等授双光旭日章（一時金一千五百圓下賜）　沖　貞助　横川　省三

叙勳六等授單光旭日章（一時金千圓下賜）　松崎　甫一　中山　小熊　脇　光三　田村　市三

奉天電報

●**獨逸領事反對**（九日發） 奉天巡警局總局告示の家屋問題に關し昨日領事團會議を開きし結果日英米領事は抗議することに決し獨逸領事はこれに反對せり

●**露公使通過**（仝上） 北京駐劄露國公使は本月十二日當地に來り哈爾賓に赴く筈

●**陸軍紀念會**（十一日發） 昨日擧行せし我陸軍紀念會は趙將軍以下の大官の來會ありて盛會なりし、萩原領事の祝辭中奉天戰より滿洲の主權確立せりとの言に對し、其以前も完全なりし旨辯明せり

●**三領事の抗議**（仝上） 日英米三國領事は家屋問題に關し本日將軍に抗議せり

●**駐屯軍撤退**（仝上） 當地駐屯軍聯隊本部は來十五日旅團司令部は二十七日を以て引揚る筈なり

雜報

●**肅親王と徐尙書**

漢字新聞の記する所によれは東三省總督任命に付徐尙書は頗る謙讓の言ありて曰く此職重要敢て余の當る所にあらす能く此任に勝るものは惟肅親王あるのみ親王か前さに步軍統領に任したる時首として巡警を改練するの議を唱へられたり其識見の高きこと余の及ばさる一なり崇文門關稅に任する時首として外國貨物の入京に對し百分の五の課稅をなせしも外人は之に允從して異言なし其交涉に長せること余の及ばさる二なり又親王か關稅に任せる時首として百弊を除き吏敢て欺かす嚴を以て下を馭し恩威宜きを得たること余の及ばさる三なり故に盛京總督は肅親王にあらされは不可なりと然るに某某と肅の政策と合はす且つ各大臣も亦多く親藩の出でゝ大郡に臨むは祖制に無きところと爲し結局徐世昌氏を推すことゝなれりと云ふ

●**直隷官界の異動**

袁總督が直隷省に扶殖せる勢力は一朝一夕に覆すこと能はさるのみならす直隷の治安は袁總督を俟つて始めて保たれ居るを以て各國か袁總督に信頼するの程度は甚た深く袁總督をして他省に轉補する如きことあらは各國は亦た却て北清駐屯軍を增加せんとの意向あるを慮り今ま俄かに政府は急激の處置を爲す能はさるの事情あり併し政府にて多少袁總督を敬遠せんと欲せるは事實にて今回徐尙書か東三省總督として赴任すると共に袁氏の幕下たる段琪瑞段芝貴氏等を東三省練兵に名を藉り隨行せしむるの說あり又た袁總督も從來の如く事務繁雜ならす二ケ師團位の管理は差程の困難事にあらされは徒らに有爲の將才を閑地に葬るは遺憾の次第なれは段琪瑞氏を東三省練軍の總督練官に任し段芝貴氏を吉林希政使に任して赴任せしむる由なり

●**吉林通信**（四日發）

▲商埠公司株主募集 狀況は宋總理未た歸吉せす公司の成立如何の根本的問題さへ未た疑團の中に埋られ居るより其局に當る者も募集活潑ならす市中には既に十數ケ所の株式取扱所を設け申込を受け居るに關せす人氣甚た冷淡にして未た一口の申込もなしと云ふ

▲宋總辨不在中の交涉局 圓滿にして滑脫なる宋總辨不在中の吉林交涉局は其會辦なる豐氏に代理の命は下れり豐氏は之を固辭して受けさりしも將軍は之を許さす豐氏も敢て命を受けたりと云ふ事はあらさるも其儘になりて代理事務を視つゝあるより甚た不熱心なるを免れす實權は殆と提調李成章の手に歸せり之を以てか事務甚た擧らす恰も此際に露兵の撤退日本領事の城內居住禁止の抗議等諸種の大問題起り始めて遭遇して未た經驗なき事なれは技梧逡巡大に敏活を欠き不体裁を演するに至れり

▲巡警總局の告示 外人家屋貸借に付巡警總局か貼出せし告示は其後我萩原總領事より二度の抗議あり今は又北京政府より該告示の取消を當將軍に示達せるやの風說もあり交涉局も大に狼狽せる模樣あり聞く所によれは將軍は該告示を知らす今回之を聞て巡警總局長胡氏を招き大に面責せりと傳聞す果して事實なりとせは思ふに此事は豐交涉局長代理の方寸より出しなるへし同氏か獨逸商と握手し不當の行爲ある事は既に公然の秘密にして誰知らぬ者もなし吾人は近時支那に於ける大小の紛議には必す其影裡に獨逸の潛むを認む否何等かの因緣の繫かれあるを見る深く警戒するなけれは必す大に悔るの時あらんことを憂ふ

▲法政館開館式 本四日德勝門外長前將軍祠內に假設せられたる法政館の開館式を擧行せり來會者は將軍副將軍以下大官三十余名式始まるや將軍達桂氏の訓諭的なる長演說あり更に校長饒宗昌氏の諭示的演說あり次き日本教習田中欽一氏の快活なる演說あり式終りて一同酒肴の供應を受け散會せしは午后一時なりき明五日より授業開始すと云ふ而して其學は法學通論、憲法、民法、刑法、國際公法、經濟學、政治學、政治地理國文、東文、算術、体操等なりと

▲四合川に於ける露人の林業 當城の東北約四百淸里なる四合川に於て露人は山林を伐採しつゝあり今其來歷を聞くに光緒二十二三年の頃時の吉林將軍たりし延氏は露國と契約し山林伐採の權を與へたり其後繼續して今日に至れり當初の契約に據れば東清鐵道用材のみの伐採なりしも今日に至りては殆と一の材木會社の如く之を伐採しては哈爾賓に放流して販賣しつゝあるもの〻如し延將軍は曾て露人より徵稅する方法を考へ山中に於て露人に賣却せる價の中より八分の收稅を行ひ之を票費と稱せり票費の意義は凡そ露人か山中に於て木材買入を爲すは必す清國官府の證明書を持參する者に限りて之を許可し其證明書を附與する手數料として代價の八分を徵收し之を票費と稱せしものなり八分の中四分は官に納め四分は賣主に支給する名義なるも其實は全部官に收納せりと云ふ如此露人か伐木なすによりて時々露人と支那人との間に交涉事件起るあり且は證明書發給等の件あるにより吉林交涉總局は四合川に一分局を設け交涉せしめつゝあり其露人一ケ年伐採高は未た知るを得さるも少なからさる數なりと聞く延將軍の訂結せる契約は山林の區域は限定せさりしと然れとも或る有利なる條件ありたりと云ふ思ふに年限にても定めありしにはあらさるか然るに奇怪にも其後該契約書は紛失して淸國當局側には存在せすと云ふ元より風說なれは深く信するに足らさるも一說として之を記し置くのみ

▲阿片烟館の禁止 阿片禁止の上諭一度出てゝより當地に於ても之れか禁止の着手として陰曆正月より阿片烟館全体を禁止せり當市は元ト比較的阿片烟館甚た夥多なりしか一令の下に禁絕せしことなれは不平の聲は隨分盛なり然とも將軍府の意見は烟館は絕對的に是を禁止し癮者に對しては阿片の官業を營み販賣を爲す筈なりと云ひ居れり之に依てか又又官業烟の一手受負をなさんとする者を生す昨今運動頻繁なり何に就けても金の出來る事の多きは支那の役人にこそ（長白山樵）

●**清兵馬賊に敗らる**

去る六日鳳凰城の北方李家屯地方に於て清國官兵の一隊は三百餘の馬賊と激戰し官兵側に於て十數の死傷者を出し敗戰退却せり奉天將軍は安東縣の周統領に對し其の率ゆる新勝營即ち曩に我軍人に依りて馬賊を訓練して滿洲義軍と爲せし兵二百名を應援の爲め戰地に急行を命したるか右二百名の兵は七日朝安奉線一番列車にて既に出發せり此の戰爭の起りし原因を聞くに曩に免稅嘆願の爲め東邊各地に蜂起せし百姓一揆の主導者と指目せられたる鳳凰城の富豪鮑化南か官府の嫌疑に堪へすして遂に馬賊に投したるか淸國官憲は鮑化南の兄を捕へて之を牢獄に投せしを以て鮑化南は遺恨に堪へす其の恨みを晴らし其の兄を奪ひ救はんとの趣旨を以て今回の戰鬪に及ひしと云ふ

●安東稅關の開設期 新任安東淸國稅關長即ち安海關稅務司バーレン氏は去る六日仝地駐在の我岡部領事を訪問し新任の挨拶を爲したる聞く處に依れは同稅務司は曩に本月十四日より開關すべき命令を受け居りしも現狀に照し何等設備もなく到底十四日には開關すること能はさるを以て四月一日に延期し同日より開關の意向を洩せりといふ

●沿海島嶼の調査 北京政府は沿海の各島嶼は皆散漫にして稽るなきを以て玆に版圖の整頓を感して特に各省の督撫に命して位置及形勢を調査する事とせし奉天趙將軍は此科巳に電囑を奉し地理に暗通する員を岫岩州に選派し沿海一帶を測量して繪圖をも部に報するに便ならしめたり

●行政委員會 一昨日曜居留民會事務所にて開催、出張中ノ飯塚、小泉兩氏を除きては他は悉く出席し本年度經常費豫算に就き討議する處ありしか土木、衞生、教育及ひ事務所費の各項に對し第二讀會を終り本日何れも三讀會を開く筈なりと云ふ、此他居留民會規則を作成する事となり是か起草委員には松倉、天春の二氏に依賴したる由

●清國女學生の日本留學 奉天學務公所にては奉天省の女學未た興らさるを以て女生を選派して日本實踐女學校に留學せしめんと欲し同省の女師範學堂より二十五名を選拔し並に外省の年齡稍長し程度較高の女生三四名を拔擢して同道せしむる事に定め過日已に趙將軍の許可を請へりといふ

●本溪湖方面の日本人 安奉線本溪湖驛方面にては守備隊の駐屯に依りて僅かに生命を繫ぎつゝありしが今回撤兵さるゝに付き在留邦人の一般は非常に恐慌に打たれ殊に賤業婦連中の如きは既に各地へ散落すべく思ひ〳〵に弗弗他方面へ向け引き拂ひつゝあり極めて不景氣なりと

●獨立守備隊の着營 這度第六十一聯隊と交替せし當地鉄道附屬地守備隊は一昨十日少尉田村新一郞氏以下五十四名着營せり

●窪田領事の晩餐會 窪田領事は一昨日梁道臺夫妻を領事館官舍に招き晩餐を共にしたりと云ふ

●混友會の例會 營口混友會は一昨十日午後六時より山金に於て例會を開催したるが會するもの松倉、片山、上野諸氏十餘名にて孰れも胸襟を披いて快談し頗る盛會なりき

●**哈爾賓の商況衰退**

哈爾賓は東清鐵道の首都にして滿洲の商業の中樞地點なるを以て他地方の商業の盛衰は同地に反射すへきは勿論なれとも此地に尙は一個年以前より起因せし商業界の恐慌今尙底止するところを知らす如何なる樂天觀を有する者も此地の將來の運命につき嗟嘆の聲を放たさるなきの狀態に在りて住民は漸次四散し商業其他生產事業も衰微の悲境に沈淪しつゝあり日露戰爭は此地の發展を沮害せるは勿論なれとも既に過去に屬す此の戰爭時代に於ける資金の散布も止みたり此の金の放散時代に於ては一時諸種事業の勃興を來たし露國の諸方面より殆んと全軍の半數に均しき烏合の輩此地に向て集り來たる戰爭終局するや彼等は金を携へて飛散し去れり然るに此地の新聞は頻りに住民に向つて近き將來に於て各地方の勃興すへきを說きて遠からす吉日の到來すへきを鼓吹すと雖も諸種の事業は漸次廢止し商舗の破產閉鎖するもの跡を絕たす此地の住民は終始或は鉄道の賣却の噂に脅かされ又はポークマウス條約履行に付國際の爭議を憂へ新しき戰爭の起るへき噂等に懸念し唯其日暮しの有樣にて都合の出來得る限り滿洲以外に移住せんと希望せり勿論此の移住の機會は今日に於て熟せるもの〻如く浦汐ニコライエフスク、ハバロフスク等は漸次發展し黑龍江鐵道は起工せられ又西伯利亞に於ける新事業は開始せられたり且又此の移住を促す原因は獨り外部の刺擊に由るのみならす內部の行政上の關係又は東淸鐵道の住民に對する冷淡なると自利主義を專らにする等に因て起ると多かるへく此地の土地の賣買貸與は殆んと實價の十倍を唱へ個人の經濟は資本の缺乏に苦み唯衰敗を待つのみ銀行の貸出政府の保護金等は戰時に行はれたれとも現時一切停止され有名なる露淸銀行は貸出を澁り鉄道の運賃も亦高價にして到底商業の發達を期すへからさる狀なり又仝地に於て有名なる數個の製粉會社の事業も漸く不景氣に趣く有樣なりと浦汐新聞は報せり

●**滿洲の諸礦山**（十六）

放牛溝炭坑

▲位置 昌圖府自理界に屬す開原縣城より北三里、昌圖府より東三里半昌圖停車場の南東二里余の地にして西北展望山一帶の山嶽の漸次南に凌延せる波狀地との中間、南に底下する丘陵の南腹に在るはそれなり、然して其西南に上、下放牛溝、北に城子溝東北に秀水甸子、東方に台子溝等の村落在りて秀水甸子の三拾餘戶を除きては他は悉く十戶に充たざる小村落のみなり、南方の陵背上には習春廟の安置あり

▲沿革及現況 聞く、乾隆年間（約百五十年前）吉林省人宜なる者に依り小窰（排水通氣等の坑道の設備なき姑息堀）の採掘を始められしが濫觴にして道坑廿四五年頃より同治十一、二年に至る約三十年間、昌圖府人蕭永鎮等數多の淸人、南北、兩山に於て排水、風通等の設備完全なる大窰を開き盛に採炭せり、現に南陵頂に在る老春廟は當時の建築に關りしものにして其廟內なる鐘には道光十八年の刻銘を見るべく是に依りて考ふるも當時は正に其全盛時代なりしを認むるを得べし、爾後光緒年間に入りて以來は南山老春廟附近に每年一二ケ所の小窰採炭者を見るに過ぎす、近き一二年は共に小窰一ケ所の採炭ありし而已なり

光緒二十六年秋の候露國人來りて調査せし事再三に及びたるも遂に何等經營に着手するに至らさりしと云ふ、降つて光緒卅一年に至り開原城內糧食兒胡同に居住せる施醫院長なる英人ミュア氏（露國經營時代の烟臺炭坑付ドクトル）の依賴に應じ昌圖府人郭霖等一昨年開掘、舊坑（小窰）を再開し日日一万斤內外の出炭ありき

▲炭層、炭質及地盤等 伏在炭床の擴脈は南北三淸里東西二淸里に過ぎざる一小鑛區にして炭層は

地表より……五丈……哈扒豈（厚一尺乃至二尺塊炭七割）……二丈……麵子曹（厚二尺乃至二尺五寸塊炭二割）……四丈……底曹（厚四寸乃至六寸塊炭六割）

の三枚より成り尙ほ南北兩山中間の平地に左の一層あり

亦地表より……六丈乃至七丈……大曹（厚四寸乃至七尺塊炭六割）

あり東南より西北に扁槽を（斜層）爲し南北兩山に於ては變動少きも中間平地に在りては伸縮甚だしと云ふ、炭質は有烟炭にして多少粘質を帶ぶるも炭層薄く且つ腰夾（ハサミ）多く其質惡し上盤は白色の豆腐炸石を以て成り甚だ脆弱なり、下盤は青沙盤石と云ひ青色又は綠色の砂岩なり炭質共に堅し

●**藻しは草**

▲韓國の馬は三尺はかりの小馬であるか驢騾の類ではない、本馬の退化して小さくなつたので、馬の資格は揃つて居るが、まあ犬のやうなもので馬とはいはれぬ位である、されは韓國は馬に適せぬ土地かといふにさうてはない、到る處の平原に肥えた草に富んでしかも毒草はなし最も馬に適した土地である、之れなればナゼ退化したかといふと、重な原因は近族結婚によるのたそうな▲韓人は由來愚蒙である、その癖射倖心は盛んた、怜悧な日本人はその愚につけ込んで、例へは三日間斷食すれは二百圓の金を遣る其の代り證據金として二十圓出せといふと、韓人は二百圓の懸賞か欲しさに、馬鹿正直にも一生懸命斷食の行に取掛る、好き頃を見計つて日本人は其の前てポカポカ蒸氣か騰つ御馳走を列へて甘さうに食つて見せる、韓人は目前の珍味に斷食し切れす、耐り兼ねてツイ手を出す、一ツ口に入れる、ムシャムシャと遣る結局二百圓の取損ひとなるはかりか、證據金二十圓をフイにしてオヤオヤといつたやうな間拔面をするとは、韓國ていつも日本の惡口をいふ某米國新聞の記事てある▲露都の日露談判では、昨今端なく動物學上の議論か、オツ初まつた、露國側では、ボーツマウス條約文に、所謂漁業とは、魚類をあさる事を意味するので、鯨や膃虎やは佛語て書くと、元來魚類てないので、日本は沿海州に於て、其の捕獲の權利かないといふのたさうな。

……經第五局入〇
室內清潔設備完全宿泊特別大勉强
一本號開設在東青堆子雙橋南　木廠發賣四、二尺三十二尺十八尺八尺株木方料株木元杆
機器　營口綏定門街
奉天小南門東專做
營口　天
自三月十一日午後六時　至三月十二日午後六時

宮門抄

正月二十日 外務部 欽天監 侍衛處值日 侍衛處引 見三名 大額駙因伊子賞廕生謝 恩 滄州 城守尉 賽崇阿 太原城守尉 載穆 請 訓 浙江知府 徐承焜 夏孫桐謝 恩 趙汝翰請假兩個月 召見軍機 徐承焜 夏孫桐 賽崇阿 載穆

上諭恭錄

補十八日上諭奉

旨御前行走科爾沁多羅郡王那蘭格呼勒之次子花翎二等台吉薩拉哈旺珠爾賚賞桃乾淸門行走欽此

正月二十日奉

上諭左翼總兵著烏珍補授欽此

上諭閩浙總督丁振鐸著開缺松壽著補授閩浙總督欽此

旨荊州將軍著松[illegible]調補恩存著補授西安將軍欽此

旨施普澤秀綸均著加恩賞給委散秩大臣富克錦著賞給二等侍衛在大門上行走欽此

旨察哈爾都統著誠勳補授廣州將軍著景澧補授欽此

論說

論捐不宜徵諸苦力以蘇民困

夫捐者。棄也。棄取其微。而不吝之謂也。國家用度不足。取商民之微。以助一時之急。出於不得已也。取捐於賦稅之外。故曰勸捐。並非額設例限。而有卯比追完之責。所以鬻官爵。亦曰捐。任我棄取之意。不能逼之使捐。勸之使繳。以合乎捐字之宗旨。我國。髮匪以前。內外庫欵。富裕充足。商民欲助而求榮。尤苦無由可納。及道咸之世。大江之南。髮匪也。大江之北。捻匪也。西北。則苗匪也。各匪滋擾之區。城廓淪陷。鄉鎮蔓延。國家庫貯。爲之一洗。軍輸竭蹙。國用艱窘。至同治初年。李文忠。開捐於上海。左文○○聲應於杭嘉。接貨估價。值百抽五。是爲抽厘助餉。起捐之濫觴。迨克復江南。一

時之。京餉也。軍協也。捐局林立。不啻店肆招徠。以應急需。仕途之品。由是乎雜。商民膏澤。深受貨捐之剝蝕矣。捐政規則。承襲相沿。遍地徵抽。風行通國。及各匪斂跡。軍務肅清。而捐政之不能裁撤者。國家原氣未復。水陸費用浩繁。度支出入。輒患不敷。開源節流。難支足額。各省之攤賠。越積起多。報銷之奏牘。左支右絀。幾十年。抽捐成例。鉄案難銷。各州縣。局卡星羅。漸行苛刻。今日商民聚訟。不能不恨於痛當時。但紫閣凌烟。確未曾深籌於善後。所以今日。承乏之員。但知抽捐。不知所以抽捐。不免有失。捐字之宗旨。但求札論到手。擇期赴局。到差視事。威福頻張。不恤商情困苦。未知民命艱難。願我私囊。十居八九。更有訝異。恤商 恩諭。不准逾罰三倍之章。以咀局員鴟張之氣。其起居也傲慢。紕驕氣以凌人。拖其翎毛。色其頂戴。假其襪。粉其底。高踞局案。自謂勤能。由是乎。飭吏嚴查。何者尚未抽及。何者可以加捐。稟復上台。而上台只憑比較。事若巴吉。似足逞能。民命脂膏。何曾深計。目今以東省捐政而論。出產銷塲兩稅。尤在統捐之例。抽地方之捐。辦地方之政。尤曰得宜。如驗票陋規一層。在上者。視之極微。然而中飽之隙。正開乎此。不見前瑕發列。索增驗費。照例加給十倍。尤不滿。意然而十倍尚有口角。俱見私相授受。百倍不聞也。不滿意者。平日常行。不止十倍。已可想見。但捐無不弊。沿習固深。廉潔者。雖不滿筐滿。斷無兩袖清風。苛刻者。冀土坭沙。要亦勃入勃出。囊者彭剛直。橐劍微行。尚難創此弊病。何待今日之議論哉。今日而論。苦方諸捐。亟須斟酌。如車捐也。船捐也。更無論。車捐而路未修。船捐而河不濬。但觀夫車之起捐。其來即少。驢車少。則火車旺。利外溢矣。他 船之捐也。船亦少。船既少。則火車旺。利外溢矣。利雖外溢。其數甚微。而無傷政界。所慮者。無數之車。萬萬也。無數之船。萬萬也。萬萬無數之船。無數之車。必加數倍無數。萬萬之人與夫也。此無數之。人良莠不齊。

一旦奪其生機。豈非强抑其窮。窮則變。不待智者明也。東三省。盜風素熾。厪念焦憂。此際殘局餘生。亟該撫之恤之。惟恐不逮以蘇其困。豈蹂躪之後。而遽增此等苦力之捐耶。非其時也。且釀此等苦力之捐。上之徵斂甚微。下之報效甚竭。開此魔門。肥人私橐。殊屬無謂。害多益少。徒供局員揮霍也。前年南者。有局員私囊肥。作酒金之樂。後被上台知而懲之。不謂東省。竊極之餘。亦有倣而行者。聞有某局省。平日自謂勤能。掠有私肥。競於上年除夕。散給傭僕。洋銀兩封。凭高樓之欄。擲銀於院。取滿地金銀之吉讖。一時男傭女僕。牝壯交閧。爭奪歡騰。眼前極樂。不思瘡痍滿目。殘敗餘生。雪風霜。汗牛辛苦。吸此膏血。揮若坭沙。自問於心。亦必後悔。君父宵憂。出於不得已之舉動。民生踐爛。那堪眞快樂之頃間。、別有肺腸。天良安在。敬告當軸。三思而行也可。

中外要聞

●英設大連領事　大連函云英國設立大連領事前已派到副領事近業擇定房屋不日即將開廳矣

●通飭查拿偽造銀幣　韓京專函云近有匪人偽造第一銀行鈔票並新舊之白銅貨等希圖流通沮害韓國整理財政以擾亂幣制之基礎故韓內部已於初十日通飭十三道觀察使督飭警察嚴密查拿重從究辦

●海參威之貨客　海參威函云俄歷十二月十五日起至一月一日止半個月間滊船之入港者十五艘上陸之人計歐洲人五十三名日本人六十名朝鮮人一百八十名中國人二百三十七名海參威哈爾賓間東淸鐵道運輸一日平均貨車二十五輛

●商船擱淺　香港十四日電云海豐公司由香港麥的洋行經理之香港號輪船擱淺於海南海嘴

●驅逐艦失事　文匯報得倫敦十五日電云英國滅魚雷艇特辣根號在考夫地方滊鍋炸裂炸斃二人傷四人

●行文警告　字林西報得倫敦十四日電云日極爾地方泰晤士報訪員電稱歐西諸國代表人已行警告之文二角至麥臣氏其一遏將摩格道地方叛亂勦平其二提醒麥臣氏阿爾格亞拉司約中某欵尙未諸實行云

●慶邸續假　北京函云親王政躬雖已漸痊然未全愈故初七日起再行續假十五日以資調攝

●郵傳部更調消息　近日外間傳說言郵傳部尙書有更調他部之議而唐侍郎本有調補外部之說現又罷論盖關於鐵路之事尤以侍郎爲熟悉云

●整頓營口銀行　度支部溥尙書以近日奉天之營口關係緊要度支部所設之銀行必須大加整頓故商之紹寶兩侍郎特派部中寶儒前往接辦布置一切

●英人要求合辦安徽礦山　文匯報得倫敦十六日電云英國華爾透倫西孟氏答海什守舊黨議員沙孫氏曰英駐北京公使喬日氏現在竭力運動求中政府允准中英合辦安徽礦務特權自華人與倫敦支那公司合辦之法可與該公司在華之經理人就近商酌故令不必再寄訓示也

●郵傳部籌畫電政　北京函云郵傳部現查中國已經設有電線地方不過十分之四故擬飭令一律設立所需經費令由州縣發給向來大東大北兩公司以及滇緬太平洋德法等國皆訂有過線合同歷年以二月爲一屆完結之期因各公司集有商股帳目未能驟行截算俟今年三月後乃能結算移交云

●德營松花江航業　哈爾賓專函云日俄議訂通商條約日本曾向俄要求滿洲松花江之航業權刻此問題尙未解決俄國人風說謂已允許日本航業權有謂提出候中日俄三國議決者傳說紛紛莫衷一是惟現已有德國商人以中國商之名義於松花江設一大航運公司擬俟解冰後即開辦松花江之航業目下已派代理人從事調查一切

●稅司入覲　字林西報得北京十五日電云總稅務司赫德君於今晨九點鐘詣文華殿覲見兩宮賀年並奏請假歸國赫氏此次請假十八個月回國兩宮頒賜甚多以酬其在華可貴之功云

●開平礦務局之採額　開平礦務局所屬之三坑石炭礦前星期內所採石炭總計一千一百九十三墩計此星期間所賣之額統計一千四百七十八墩

●淸日電信聯盟說　客冬中國政府所修東三省電線由奉天府至昌圖府橫過南滿洲鐵路之幹線以聯絡吉林黑龍江交通東三省之消息當時日本林公使以該電線橫過南滿洲鐵道綫路因而抗議而中國政府亦詰責南滿洲鐵道會社不應擅辦奉天省公衆之電林公使亦再三辯駁屢起交涉今已議定淸日電信聯盟目下林公使與外務部商訂其大綱細目云

●大學士評論張香帥　某大學士昨語人云張香帥之政策實在令人費解前議內官制時編制局王大臣曾電商之而張僅以不[illegible]問三字電覆今議外官制王大臣又電商之張則函電交馳動輒千百言某日則連發三電致四函若謂其爲熱心國事耶何議內官制時竟如游夏之不贊一詞若謂其爲無心國事耶何議外官制時竟學儀秦之舌不爛三寸此中奧妙解人或當喻之吾則實所不解云云

●徐尙書之謙讓　盛京將軍一缺關係緊要趙次帥居任數年各大政尙無貽悞惟滿人意者頗多徐尙書世昌回京後條議東省甚悉某邸曾語人云有徐尙書將總督奉天之說昨聞徐尙書頗有謙讓之意謂此缺重要非予敢當能勝斯任者惟肅親王親王前任步軍統領之時首議改練巡警識見之高吾不如者一任崇文門關稅時首創洋貨入京值百抽五之議外人則翕然允從長于交涉吾不如者二又王任關稅時首除百弊吏不敢欺嚴以馭下恩威得宜吾不如者三盛京將軍一缺非任肅親王不可惟聞某某素與肅王政策不合而各大臣亦多以親藩出臨大郡非祖制所有爲疑故肅邸總督奉天一說亦將作罷仍以徐赴東三省爲多云

●議定限期結案　近聞政府議定嗣後無論京外大小各衙門凡尋常案件必須在半月以內判結大案以六十天爲判結其重大案件而事關隔省或須奏請者統以半年爲期逾期如不能判結將詳細情形小官申明上憲大吏具摺奏明另展限期如未經先期申明即不得辭因循之咎云云聞不日即將行文各部院各省一律遵照

●電飭嚴防會匪　自天津車站搜獲洋人炸藥事出後政府已有所聞諸公因以邇來革命黨到處潛伏民心浮動長江一帶夙爲會匪出沒之區前雖迭經電飭防守但恐日久懈生乘時煽動關係匪輕應即電致江鄂總督迅速札飭上下游及地方文武各員嚴密巡防實力稽查以備不測

●梁侍讀請准派員赴美　侍讀梁慶桂以華僑學務繁重請學部酌派數員之贊襄一切學部以此次人員必須通曉英文始資得力大學堂總監督李右丞家駒特於大學堂師範科畢業生中擇定朱兆莘曹冕何炎森程祖[illegible]四人皆通曉英文中學亦有根柢者聞學部派之之意係使半日入大學堂肄業半日在華僑學堂教授漢文一切川資及游學費用均須優給並許以數年後學成歸、優予保奬云

●保薦奉省人才　政府前因東事吃緊曾密諭各大臣保薦人才並以二事爲格一長於外交二控制胡匪聞袁宮保徐尙書均力保增韞確有閱歷爲奉省人才之冠若任以方面重任必能措置裕如聞已奉 旨交軍機處存記

●軍機不在私宅議事　聞軍機大臣近日會議現當整頓政務亟宜認眞辦理查從前退值後凡有緊要事件多在私宅會議殊非愼重機密之道此後擬於軍機處另設一室遇有應議要事或各省緊要電報摺奏俟 召見畢即可咸集該室會議隨到隨辦以免稽延而昭愼重云

●學部之宗旨　學部榮嚴達三堂憲近在署連日會議云東洋學術雖屬日新而風氣浮囂故學生一經到東即多爲邪說所惑此輩留之不可誅之又不忍勢屬兩難與其嚴懲于日後不如妨變于事前嗣後各學生宜多派赴西洋雖學費較鉅而于風俗人心大有關係之事亦難吝惜云

●趙將軍對日三策　聞奉天將軍趙次帥近籌對日本之三大政策電咨外務部(一)減削日本在東三省之裁判權(二)請本官吏裁制在東三省日本人之無職業者以免與中國人民多生齟齬(三)促日本官吏將在盛京城內之日本娼妓盡數遷出城外租界之地以免地方風俗因而濁亂聞此等事件趙將軍經向日本總領事交涉未能照辦故電請外務

雜報

仁義雙輝　本埠魏牧師見義勇爲勸人以感上年江南淮徐等處洪水爲災饑民百萬流離失所顚沛道饉聞之鼻酸言之心痛迭徑魏牧師梁觀察叙卷出募到處勸捐義士仁人解囊助賑又豐商會諸董員紳協力資助集有洋銀二萬數千元購辦紅粮數千石預爲運往江南以資散給嗷嗷飢民得此仁漿義粟正似楊枝沾潤昨聞魏牧師逕向太古洋東商懇預備輪船載運遠太古洋東慨然承諾以此項賑粮實是春政亮尤不取運費水脚即叩電報上海速放船來裝運得非魏牧師之見義勇爲不顯太古洋東之仁心慷慨玉成美舉仁義双輝本報謹代饑民三叩拜謝更爲 双輝頌福無疆

●輪船到埠　昨午十二句鐘太古洋行保定輪船進口准於今日開放登州龍口等處温州輪船亦掛今日開放登州龍口

●輪船直放上海　太古漳州輪船掛明日出口直放上海

●驅逐妖冶　西頭火神廟東隔壁有男女唱歌更粧種種妖冶情狀不堪寓目有傷風化有頃適爲本段巡警看見立即驅逐出境以免勾 引青年浪蕩而靖地方誠善哉

●兇鬭拳歐　火神廟前馬姓茶館夥鄭姓與陳永相鷄姦日以爲常日昨有小姜牙子年輕俊秀鄭姓見而又起淫心有得壠望蜀意陳永相知情吃醋拳歐姜牙子不料小姜牙子有志斗某來持棍痛歐陳鄭兩相兇脫老斗亦收棍而歛

上海新聞

●鐵道購地　滬寧鐵路公司圈用寶山縣境同仁保安堂等義塚基地迄今多時該堂仍不允遷讓故公司總理處施觀察電禀郵傳部請飭滬道傳諭該堂董事迅即遵章領價遷讓以便路工該部據禀已轉電瑞觀察妥速遵辦

●謠言勿惑　連日城內租界忽有人散布謠言昨日甚尤無識之人頗爲所惑昨日爭購糧食菜蔬等物昨上海縣已飭差捕並飭各局嚴加防備而英美租界亦已由義勇隊等警備其實地方安靜異常商民幸勿爲匪所惑致滋擾累聞有地方之責者已密查拿造謠之人懲辦矣

●郵船到埠　日本郵船會社輪船春日丸於本月十三日由日本長崎開駛來滬準期本日下午一點鐘到埠

●嚴查會黨　廣東省督韓去職接奉北京政府電稱現據鄂督張電請有革命黨羽散布廣州擬乘歲暮舉事請飭粵督嚴防等情應飭認眞督飭所屬嚴

密查緝云云周玉帥接電後即邀請水師提督李軍門並傳藩臬廣府警局會辦等員到署商議警局會辦回局後即密札城內各分局刻日嚴查城鄉內屋舖如有新搬來者着即查明其從何處搬來併查明該屋居人舊日所住地地方總共男女若干人隨時派遣巡目巡長等分往新遷來之住戶密查如形迹可疑當即拿解總局訊究至於段內舊住戶如忽有生面之人亦應向其嚴行盤詰節節跟究稍涉支吾即行解局審訊此係承旨密飭之件即該官長等亦與有關係倘敢視爲具文奉行不力一經查出即從重撤究云云今者新正已過幸獲無事未始非先事嚴防之功也

●百物騰貴　江寧垣去年日用所需價已昂貴詎至新正一切食品較之舊秒尤昂如米一石已由六元漲至六元三角蘆柴亦貴於歲底十分之三猪肉則每斤漲至二百四十文白菜斤亦需十餘文殆淮徐飢荒所波及也

●日本全國銀行之調查　日本東京函云日本大藏省現調查日本全國銀行共計貳千貳百參拾六家資本金五億五千八百七拾八萬一千一百六拾九元較之去年拾貳月杪調查行數增加一家資本增加一千九十四萬元今將各種銀行列表如左

行名	行數	資本
日本銀行	一	三千萬元
橫濱正金	一	二千四百萬元
日本勸業	一	一千萬元
農工銀行	四六	二千八百五十萬元
台灣銀行	一	五百萬元
北海道拓殖	一	五百萬元
日本興業	一	一千七百五十萬元
貯蓄銀行	四六一	六千九百餘萬元
又外國分行	一	一百二十五萬元
普通銀行	未詳	未詳
株式銀行	一四五二	三萬貳千八百餘萬元
又外國分行	一〇	四百貳拾餘萬元
合名銀行	六五	一千九百貳拾餘萬元
合資銀行	一〇六	一千零萬元
株式合資	二	六拾五萬貳千元
各人銀行	八六	五百六拾九萬餘元

叢談

●擬某令毆妻判　判得藍田種玉婚姻聯二姓之歡滄海求珠伉儷篤百年之好是以買大夫之射雉志原在乎娛妻張京兆之畫眉迹豈拘夫媚內男下女而古禮數柔制剛亦大體備從未許碧紗簾內同蟋蟀以相持綠綺隱前疑螳而奮門者也乃口口以烏城小吏羊石微員依戚族以陞官恃苞苴而入仕貪如孔連不聞酌水以勵清酷似張湯未見作霖而溥澤猶復狐將威假鬼欲沙含辟荒署以啓戎心藉香閨而施毒手紅顏莫恤鞭笞有甚夫訊因弱質不憐敲朴何殊於懲虜在該氏女箴素守婦道能敎徐淑多才不愧一家之秀孟光克敬允爲百里之型徒以其夫勢終傾倉多必敗進良言而逆耳箴醜行以傷心而口口竟怙惡不悛知恩莫恃泰山而壓卵對荊室而揮拳暴戾如斯豈容恕宥夫迎田致敬却缺堪爲百世之師舉案相莊梁鴻可作千家之表口口緬懷古哲豈不汗顏夫夫妻敦好實先王致治之階男女平權即西國克强之本苟不懲暴行於閨閫何以示醇風於邑里口口夫綱太重着屈膝以示小懲而某氏婦智稱優庶揚眉而償夙憤從此再加新約毋蹈前愆倘口口猶跋扈不悛着某氏得澈底告發將見案前桎梏反誅汗吏之奸座上桁楊定警暴夫之惡例出必行尚其凜畏此判

●精神作用之影響　有某婦人性情最易激怒生一兒已周歲矣兒體頗壯決不似數週間所能殤者一日婦人出室操作勞頓苦加之有友來訪因事齟齬心頗失其愉快及至室中適見其姊之女跌於兒臥之榻前破鼻流血復大驚駭是時婦人於一日之間受種種之惡感情相襲而來故精神激動頓失常度兒吸其乳腹胃間亦驟失常態於是熱度上升手足拘攣排泄物遂呈綠色不三日猝然夭矣是即精神足以左右身體之確証也

有某婦者偶携其兒遊行戶外不意窗上玻璃忽墮適中小兒之手傷其三指血流如注其母驚悲之餘不知所措旁人爲代延醫者診治綳紮傷處畢回顧其母則已呻吟宛轉亦呼手痛不已醫生驗之則其三指亦隆然腫矣雖然其指固未知有如何之損傷也醫者乃以刀破之排泄水分而去其腫毒其傷始愈焉

法京有仰藥而死之婦人爲醫士所檢查其結果之報告曰凡婦人之服毒而死者不必實爲有毒之物也若深信其爲毒物則所服者雖爲全無害於身體之防蟲粉服之亦可致死蓋彼想像其粉爲毒藥以爲服之必無生理是精神上已有必死之觀念因之遂呈於實際也

昔有某科學博士得拿破崙三世之許諾將一犯人緊縛於柱上密蔽其兩目而告之曰今我將汝之頸動脈割斷其血流盡約至六分時汝必死矣語訖然後將此犯之頸部以針輕刺裂數處復命人於一方以水滴之使如血滴之聲然此犯聞滴滴之音信爲已血之流出也遂漸次變色甫至六分時竟果然死焉

又某學生曾以惡作劇致死一人蓋某禮拜日衆休息無事乃誘一司閽之人來閉之於室嚴縛之而緊綁其目向且之爲斬首之宣告并牽之以行使登一高處遂告之曰汝已在斷頭臺上矣又以極銳之巨刃一柄使彼以手捫之曰此刀即殺汝之利器也其人不已哀泣求饒衆學生不恤遂暗中以濡水之手巾猛擊其頸意欲使其疑爲白刃之來觀其情狀以供衆人之笑樂而已及玩弄已畢衆引之起已彊然就斃矣

發明曰　精神爲腦部之作用然若知覺若運動則有專主之部分至於感情緣何而憂緣何而樂緣何而驚悸則爲全部之作用雖云觸於外感以爲應而所以應之之理終莫悉其究竟要之此等作用別有所謂心理學離腦而別成一種的心靈不能捨腦而求之亦不能即腦而求之其所謂心亦如哲學家之言唯心匪可泥心求之也精神之作用最奇有由於積漸者有由於猝來者循其軌之所至甚者或至於死人畏鬼鬼魘觸與皆鬼能歷歷言其所見有因此受悸至死者死謂被鬼毆擊果遍體黑而死實則無鬼其鬼皆一己之精神爲之如人閉目可作萬象呈於已前是也其體之黑則心有所悸迴血即爲之凝結故耳他如害相思病者亦然百藥能弗愈惟其所專注之情一遂則病若失皆精神之作用爲之也夫人恒有注意之一點此注意點不移更有以層纍之即以成精神病今之用催眠術者道亦由是能使人精神注於一點其人即爲所驅遣其術似幻實精神上之學科耳他日此學大明則中國所稱之鈎魂攝魄等讖說未始不可呈諸實事也

清國饑饉救濟義捐人名並金額（第十三回）

喜久洋行

幡田義之助	金五圓
山田松子	仝貳拾錢
格田まさ	仝五拾錢
鈴木錦	仝五拾錢
田島京	仝五拾錢
玉井商店	仝拾圓
基督敎有志者	仝壹圓

小計 金拾七圓七拾錢
締切合計 金六百圓六拾五圓五錢 銀九百六拾五圓六拾錢
訂正 第七回合計金三百八十圓八十五錢、第八回合計は四百〇七圓九十五錢は五百九十九圓五十錢は五百九十九圓十錢の誤り

營口 小紅樓茶園

二十八日早演
吳慶春 景德泉 小荷花 小李官 小旋風 唐永長 吳春亭 海棠紅 馬云龍 金玉生 金玉紅 劉少斌 劉玉双 方德秀 杜和
李靈碑 定軍山 破洪州 御果園 鴻鸞禧 青峰寨 座樓殺院 牧羊卷 全武行伐子都

二十八晚演
吳慶春 小李官 小一千紅 小荷花 張瑞仙 唐長 劉玉斌 方德双 小順奎 王鳳山 金玉生 金玉紅全本 海棠紅 馬云龍
反延安 鍘美案 錯錯錯 獨虎營 八十八扯 双拾萬金 鴦場出彩

營口 永發茶園

特請京都天仙名班
正月廿八日早一點鐘開演
小海紅 小紫合 王鴻魁 小翠芬 青菊花 小金紅 小翠仙 蕭國珍 賈玉書 任作田 孫九齡 十三紅 小金娃 花四寶 蘆月琴 小金英
搖錢樹 二進宮 鳳儀亭 溫涼盞 黃鶴樓 鐵龍山 柳林池 五兩銀 珍珠衫
廿八日晚七點鐘開演
小海紅 小翠仙 小春奎 賈玉書 小紫合 孫九齡 小燕飛 花四寶 蘆月琴 蕭國珍 宋鈺珊 十三紅 小金娃 花四寶 蘆月琴 青菊花
鴛鴦樓 下河南 寄子 一枝桃 雙玉鐲 奪小沛 大登殿 全本宛怨緣

本行發售

●東洋布疋 ●洋毯被面 ●自造玻璃器
奉天大西門外 穗積商行
鐵嶺西門外大神廟街 穗積洋行
仝 東門外 穗積洋行支店
寬城子北大街 穗積洋行支店

上海 阜豐公司

紅藍自行車牌麪粉

請看三大特色
一筋骨强　本公司選中國上等小麥製成麪粉內含膠質極多任做何等點心不易破損以製抽挂線麪尤妙食之適口有味與別家洋粉不同
二分量重　本公司麪粉合營秤四十三斤以視洋粉重四十二斤甚至重四十一斤者大有區別
三吃水多　本公司麪粉異常乾潔如將本公司麪粉一斤與洋粉比較應多吃水一兩每袋則多吃水四十三兩矣試之自知
具此三種特色中外推爲頭等牌號價雖稍昂然細爲核算仍屬便宜至於筋骨堅强則爲本公司所獨有有識者自能辦別現由營口西義順發賣零躉均可義順厚厚有出佈合兩㴬亦此售

回回 戴廷揚 世傳外科 專治跌打損傷一切雜症 包治瘡毒 著名精治
寓所西沿南本宅設營溝第四段老爺廟東邊門牌二十號

日本及清國政府認可招牌，爲記

胃症良藥

東京 大阪 山田安民大藥房
承辦大清國營口衛生局醫藥器械等物商
啓者此藥爲日本海陸兩軍諸大名醫及藥劑官五名共同研究極力參考始得發明其劑其主効之顯著久已名馳內外誠蓋世無比之良藥也倘蒙 仕商惠顧請認明本舘招牌爲記庶不致誤

胃活專治効力

胃痛 膈食 胃弱 多年胃弱 胃炎 胃痙攣（即或時疾筋） 食物不進 胸痞（食物不消化故胸積弊） 宿醉（即昨日飲酒今日尚醉） 惡心 嘔吐（見食吐） 吐酸 嘈雜 膨脹 或小兒吐乳等胃症若少服之則靈驗如神云

胃病形骸

胸張困苦○食物不進或食過多○胸漲痛 打臭噯○吐粘涎○吐酸水○血氣逆上則目昏花○腰腿發冷○或大便不下○或時下瀉○或腹內無力氣不時憂鬱○顏色青黃○身體困倦○或勞働而無力○且無記憶○若少出力則厭○不時好睡此等症皆胃病之形體也

價洋 三日所服藥料定價洋二角五分 十七日所服藥料定價洋一角〇八日所服藥料定價洋 五角〇三十七日所服藥料定價洋壹元

寄售處 營口永世街 回天堂三木大藥房（電話百九十番）
同 西北街 回天堂三木大藥房分舖

保功赤深

晏輝利西耶人也年僅十四而相貌魁梧儼然一偉丈夫焉第五年之弱不勝衣奄奄一息舉家惶恐懼其夭殤之情形若非其母向人之則鮮有知之者據其母云輝兒自三歲時即患喉腫之病作之則不能飲食週身火熱呻吟床第時發時止數日一發數月慘忍聞有時病甚則不但不能飲食并且呼吸不靈因是之故日漸消如是者有五年之久此五年中所延之醫以數十計所服之方以白計內外兼施或有時而疾暫止惟旋愈旋發而迄無成效適閱某報載韋廉士大醫生紅色補丸之功用明徵余意爲之動遂着小兒吞此丸以冀奏効亦未敢必其有成也乃服丸之後則見其愈一日前俱用暖湯洗澡若用凉水則病乎此則用冷水而無碍矣且浴後體更爽快也前後服丸不過三瓶而其病若失且無復發之弊焉也身壯力勁加人一等而食量日者皆韋廉士大醫生紅色補丸之也余夫妻感激五中無以爲報逢人說項以誌弗忘而已〇〇〇只廉士大醫生紅色補丸利于大人利于小兒凡小兒科之抽促瘡龜胸狗背血虛等症一得此丸之力而獲痊者全年中以千計反弱爲强化衰爲壯皆此丸之功也夫人生百病多由血虛有邪毒所致此丸有活血養血之功清血補血之能故奏効速有蓄血足則百病不生而諸疾自除矣此丸名馳大陸遠人皆知其能一切食積不化肝氣不和風濕骨痛等症大凡半身不遂脚氣衝經來腹痛先大不足諸虛百損虛症病後須補者均宜處藥店均有發售或直向石叨海邊第一度吊橋韋廉士醫生總藥局採買亦可每一樽價銀二元五角每六樽價銀八大元論遠近郵費均免

滿州總代理人 牛庄遠來洋行

仁裕號

係裝運各幫火輪船生意兼賣各制洋什貨糧石等此僅
營口西大廟街路北警乙十三號

東盛和

本行在營口創設二十餘年專辦出口餅豆粕等貨並進口棉絲布疋火柴洋麵糖煤雜貨發行匯兌銀錢兼代客經理買賣租船裝運事宜營口廣東兩處自建碼頭能泊輪船二艘棧房地方寬大凡泊輪船裝卸貨物頗爲便固貯油餅豆米麥更爲合宜兼置有輪船一艘名城多利能載重二萬担如有欲租船運貨及在棧存貨物水脚棧租格外從廉貴客賜顧請到小號面議是荷
總理司人 葉亭卿謹白

重燒麪包發賣廣告

本行自關東陸軍倉庫買出重燒麪包存於牛家屯倉庫發售每批須千箱以上貨美價廉祈賜顧者赴本行訂購可也
營口永世街竹村舘 白井洋行出張所

御定宿 第二東京館 館主 松田平四郎
精々御客様の御便利御計り可申尙 かきめしの準備も有候 間何卒御愛顧の程願上候

講談 朝顏日記（第六席）

桃川燕林口演

八「有難う存じます……」そのまま奥へ通ります、その中に了庵の家內にも面會を致し挨拶を述へる、さて八十松はこの處に足を停め、了庵に就て學問修業に餘念なく、ここに暫くの月日を送りました、段段了庵の樣子を見ますると、成程儒者てはございますか、どうもまた八十松には物足らぬ所がございます、そこて思付きましたものと見江了庵に乞ふて暫時の暇を貰ひ、その頃ほひ美濃國岐阜に居りましたのが中江藤樹先生、これは大儒でございます、農家に居りまして淸貧を樂み、富貴榮達を願はざる位の人でございますから誰か參つても弟子を取らない、強ての願ひに藤樹先生も八十松の熱心に感じましたものと見え、二年の間手許に置て教訓を與へました、されは十五て家出を致し、十九の時に再び岡山へ立歸りましたか、その砌は左しもの了庵も舌を捲きまするやうな大學者になりました、そこて元服といふことになりましたか遲うございます、十九て元服を致し改めて熊澤了庵の養子といふことに相成り、治郎左衛門了介と改名致し、號を蕃山といつて後に大儒の名前を殘しましたるくらゐ、併しなから齡か十九て、その位の大學者てはございますか誰もそれを知りませぬ、この頃ては養父の代理を勤め家中の者に漢學の教授なとを致して居ります、二十四歳になりましたときに了介先生始めて器量あることか判りました、何て知れたといふは太守光政公ての御方は御勇氣の君てございます、一旦武藏守を願はれましたか徳川幕府に於て許可致しませぬ、再度三河守を願はれましたか許されませぬ然らは生涯任官は致さぬと仰せられまして、新太郎て少將の位にお就き遊はしたるお人てとうもその御勇氣の君ほとありまして、江戸表に於ての頃ては夜な〳〵辻斬にお立出遊はす、さうかと思へは多くの家來を連れまして廓內へお遊興にお出になる、天下の役人か留立ても致したら、それによつて目に物見せて呉れやうといふ思召、光政公の亂暴狼藉甚たしうてございます、江戸表の家老一同評議を致し、とうか御異見をと思ひまして、二三御諫言を申上けた者もありましたかお聽入かございませぬ、強て申上けまするとそれかためにお手討に相成りまするやうなこと國表の老臣も大に心痛を致し、とうか殿樣へ宜しきに御異見を入れる者を下し、その者より上の御行跡を改めるやう致したいと心得、重臣二十六人集まりまして協議に及ひましたか、とうもその江戸へ出て殿へ御意見を入れやうといふやうな器量人か居ないと見え何れも同しやうな論を述へて居ります、その時に父了庵の代理、儒者のことてございますからお席に列つて居りますか了介暫く考へてゐたか稍あつて頭を上まして 了「エヱ花房殿まて申し入れ升」花「何事だ」了「殿御亂行御意見のために吾妻へ下向を致しまする儀は、拙者へ御沙汰下し置れますれは、速かに殿の御亂行御止め申上けまする、この儀は了介へ仰付け下し置れまするやう……」城代花房殿これを聽きましたかまた、了庵の養子になつたばかり、器量の程は知れませぬ、殊に齡か二十四て頗る美男子てございますから、斯ういふ人物か參つて御異見を入れても、とてもいくまいと思ひ 花「了介切角の望みてはあるかまた若年の其方却つて殿の御機嫌に逆ふやうなこととかあつてはならぬから志は聽届け取せるか……」了「それは花房殿御一言とも存じませぬ、若年とは申す條手前もモハヤ二十四歳に相成ります、して見ますれは強ちさはかりの若年でもございませぬ、御異見を致しまするこことを心得居りますれはてそ願ひ出まする、それを一言の下に御退け遊はすといふのはその意を得さること……」花「然らはとう御異見を入れる、上の御亂行辻切をなさる、或は多くの供を連れて廓內へ入込み、御遊興に耽り玉ふとのことか何なる手段によつて御異見を入れるかそれを承はりたい」了「これはドウも花房殿御言とも覺えませぬ機を見て變に應しまするものは、總体異見と申しまするものは、此方て考へて參つたれはとてその通り殿か仰せられゝは格別、然らされは無益に相成りまする、上の御詞に從ひ、その御亂行に從つて御異見を入れまするか手前の役目にございます、御奉公始め拙者を是非とも江戸表へお遣し下し置れまするやう」傍に控へて居りました松田民部といふ老臣 民「これは城代、了介の申す所至極面白い、大學者といふことてあるから、また宜しなに御異見を入れるかも知れぬ死にあれ、了介を江戸表へ下したら宜からう」そこて評議一決致し、いよいよ了介を江戸表へ下向致すことになり、大急の使を以てこの旨を江戸家老富永帶刀へ申入れます、帶刀より君公へ申上けると新太郎光政公以ての外御憤り 光「何ぢや國表より予に異見の爲に了介治郎左衛門か參ると後は熊澤了庵の養子なる由、出生したのは肥後の熊本と承はる左樣なる人物か參つて予に異見を致すと、嗚呼な奴、下向致すと雖とも予に目通は相成らぬから左樣心得」とお側の人々へ仰付られました、その中に了介は日を重ねて江戸表へ着しお上屋敷へ入りましたか私に御前に出ることは出來ませぬ。

●露探コリンスの眞相

露探革命黨爆裂藥等容易ならさる文字の下に世人の驚愕を惹き目下天津英國領事館に勾留せられ居るコリンスの眞相に付き其後得たる處の報道によれは

▲彼は●●ニスリ也 彼は日露戰爭の當時日本にありて日淸兩國の事情に通し其容貌も東洋人に似たるを便とし身同盟國たる英國に籍を措きなから淸國の要地に駐在せる露國武官の爲めに我國に於ける軍事の秘密探偵を爲し獲る處の報酬も莫大なりしか惡錢身に着かず惡事顯はれさる無く遂に我警察の爲めに捕へられ處刑を受け出獄の後間も無く嚢中の空虚なるに至りしより北京にある露國武官をユスりて若干かの物に爲し更らに何事をか目論まんと巧み天津に赴き露國武官をユスりに掛りたるも戰時中の事は戰時中に終り時局の去りたる今日に到り斯かる事を持ち出したりとて其目的の達し得べき筈も無く少しの涙金を與へられたる後其後は面會をも拒絕せらるゝに到り剩へ同武官より危險人物注意人物として

▲袁總督に密告 せらるゝに到れり袁總督は此の密告に接し直ちに濕某なる偵吏に命し法を以て彼れに近づかしめ其擧動を探らしめぬ濕は種種の苦心を以て屢屢彼れの止宿せる芙蓉館に趣き遂に彼れと相接近するを得爾來同志の如く裝ひ其一擧一動を細知するに到れり

▲彼れの妻は●●●●哈爾賓に在り コリンスは妻と稱して小澤某を日本より擊へ來りたるも其本妻は目下哈爾賓に在るあり天津に於て若干の金をユスり得たる後哈爾賓に到り其の妻と同棲して何事をか企んと圖りたるも肝心の金の手に入らざるより空しく時日を費し此上は露國某官に對し

▲恐喝の最後手段 を取るより外かに策無しとし遂に何れよりか鹽酸加里金硫黄などを求め之れを恐喝用唯一の武器とし露國某官に對し最後の手詰の談判に及ばんとせし至りしかば淸國警察は彼れが北京に趣かんを偵吏より早くも淸國官塲へ告知するにとして停車塲に到るを待ち受け易易之を捕縛するに到りたるなりと云ふ

●露人の泥坊 一昨日の事とか大石橋警察署詰の巡査が同地附近を巡行の折一外國人が何やら包物を抱いて韋駄天走りに走つて來るのに出遇ひたれは此奴怪しき奴なりと早速引き捉ゐて引致せんとせし折柄一人の支那人が喘ぎ〳〵追ひ懸け來たりたれば段段其訴ふる處を聞くに彼は露西亞人にて前記の支那人が店より緞子四十尺程を盜み出したして逃け出したるものなりとの事判明したれは右の犯人は即日當日本領事館に護送され直ぐに露國領事館へと引渡さんとせしが同夜は餘りに遲ければとて露國領事よりの依賴に依り一夜を留置塲に明かし一昨日露國領事自身出張し一應の取調べを爲したる上其儘引き連れ行きしと云ふ

●誘拐されし賣笑婦 營口永世街に海陸館といふ魔窟あり主に支那の下等勞働者のみを相手とし醜業者間にさへ甚だ評判惡しき小料理屋なるが全家の賣笑婦六名は何れも大分縣楠郡邊の百姓の娘共にて去年當地より歸國せし全縣下毛郡大幡村南満市といふ惡漢の爲めに誘拐されたるものなるが彼等は滿洲は堅氣の奉公て金が溜る樂が出來ると信じ切つて來りし事とて支那人を客にせよと云はれ非常に驚きもし歎きもせしが狼の如き海陸館の手に落ちては今更如何ともし致し方なく泣泣醜業を働き居れるが海陸館と南とは萬一彼等が今の境遇を國元へ通知することもあらんかとて絕へず威嚇を加へ又不法にも外出を禁し書信を檢閱するなど殆んど監禁同樣の虐待を爲し居るとの投書ありたり、果して事實ならば怪しからぬ曲事といふべく斯る非人道の行爲に就ては其筋にて嚴重の干涉こそ望ましけれ尙此南某は曩に關東州より退去命令を受けたる事ある惡漢なりと云ふ

●玉突競技會と圍碁大會 來る十七日の日曜をトし新市街營口倶樂部にて同會を催すなり會費は銀五圓なりとの事

●春蒔種子の無代配布 岡山縣邑久郡長船農事試驗塲にては荷造費として切手拾錢を送れば例年の通り實驗上有益の種苗舶來蔬菜及西洋新輸入の草花貳拾種を何人にも無代配布する旨同塲より通知ありたり

移轉
營口元神廟街關東公司南隣
牛莊ホテル
電話一六六

●日本中の名物 今度東京博覽會第一會塲內に出來た特設出品飲食館といふのは博覽會へ各府縣より出品した飲食物を即賣し若くは料理して觀覽者の口に上せる趣向で酒もある、菓子もある粕漬、罐詰なともあるイヤ日本國中のあらゆる名物を一堂の下に集めるのである

▲甘いものは

岐阜の柿羊羹　大阪二井の粟おこし
越後の越のあられ　熱海の柚羊羹
岐阜の松風　新潟の無ネ果羊羹
信州の氷餅

▲夫から上戸黨の嗜くものは

大阪の淸酒白鶴　札幌の林檎酒
鞆の保命酒　東京府下吉野の梅酒
岐阜の養老酒　佛蘭西の純葡萄酒
薩摩の泡盛　堺の味淋酒

▲罐詰類其他に至つては例へは銚子の醬油に土佐の鰹節で味をつけ河內の名物素麵を啜らせる又長崎大村の鯨のお茶碗にして味はしめるといふ譯である

柳川すつぽん　北海道日高の鰹節
長崎大村の鯨　廣島鮎の黃金漬
久留米の蒲鉾　岐阜の大根漬
銚子のヒゲタ醬油　神戸の蒲鉾
松江の鮑　土佐のかつをぶし
靜岡の山葵漬　下關の雲丹
仙臺の鯛味噌　大和の奈良漬

清酒稻正宗
盛進商行
（電話二〇番）

源五郎鮒の甘露煑　新潟の玉子饂飩
飛彈高山の三島豆　枇杷島のみそ溜
米澤の松茸　津の白魚櫻煑
信州の凍豆腐　江州鮒鮓
琉球の豚琉球煑　千葉の螺々煑

此は名物中の重なるものであるがマダ〳〵澤山ある

●驚くべき巨鯨 此程土佐沖で捕獲して兵庫沖苅藻島に曳來り公衆の縱覽に供せし巨鯨は長さ四十間、體量約五万貫、又同大阪海濱に曳來つたのは長さ二十七八尋、胴圍二十尋餘、鰭の長さ一丈七八尺、重量一万六千斤、又舌の三分一を切取つて四斗樽二十七個に入れ、其男性のもの陰部の長さ約一間半とは前代未聞といふへし

桜書籠

讀熊士の腕白會、大贊成なり眞に大和漢子の本領を發揮するを得べし余は其末席に加らん事を望む（鐵々生）▲永世街花の屋の操さんは相當の教育もあるのにどうしてあんな處に居るのでせう一日も早く足を洗はして欲しい（天下地上）▲日本館の都さん余りベタ〳〵するのでお客は嫌ひますよ御注意なさい（〇〇生）▲東邦亭の花ちやんは近く新市街邊のスウちやんに落籍されると云ふ噂が專ら有ります事實ですか（岡燒生）▲停車塲前若松屋の便所の圍ひ板は何時も取外してあるが通行の頻繁な處であるから是非何とかして貰いたい其筋の御役員の御注意を願います（見苦生）▲新市街の東洋商品館は何時頃から開館するのでせう乎一向移轉して來そうもありませんネ、そうしたのでせう（街民）▲牛莊郵便局の人人は凡て親切叮嚀であるのに通信局の人は甚だ不親切です特に配達人の横柄には驚きますよ、戰時時代とは違つて居ますから今少し懇切にして下さい（排電生）▲一夜友夫婦の旅順に赴くを送つて停車塲へ行つたとき月なき夜半の星を數へながら同行の丁生と談じた其昔は彼も我も放浪の一書生であつたそゞろに當年が戀しく慕はしくなつたから丁に不忍池畔の徘徉が思はるゝネーと云つたら夫は君が日頃の議論にも悖るぢやないかとやられたそこで余はイヤ此は一時感情の波動に過ぎないのだと打消したが心は甚た穩かてなかつた（寒村）▲新市街の〇〇君は其壯年時代には英氣の颯爽たるもので戰爭時代なぞは軍人以上の氣魄を有して居つたとの事である今も其激越な調子は尙當年の面影を存して居る幸に自重し玉へ（傳聞生）▲偉人の追懷は吾等の生命であると某が云つたが其の通り我等も其各人の性格に鑑みて一の偉人に捉し來たりそこに出來うる限り私淑して居れは一種の力が平素我血を流れて居る（白山）▲余は淸請稽古に付て獨習せるが如何なる方法を取れは速成すへきか博識の先輩に問ふ（貧書生）▲四五六小僧さんにお知らせ申すお前樣とならば何時でも女房になるは一日も早く此身体を安心させて下さい（御存じより）▲永世街二十八號の豚小屋の豚何疋居るか御存の方に御知せを願ふ（至急伺生）

牛莊取引所相塲

本塲（五月十一日）

五月限	豆	豆粕	豆油
一節	—	—	—
二節	—	—	—
三節	—	一三、四一〇	—
四節	—	—	—
五節	—	—	—

後塲（五月九日）

五月限	豆	豆粕	豆油
一節	—	—	—
二節	一〇、七一〇	—	—
三節	—	—	—
四節	—	—	—
五節	一〇、七〇〇	—	—
出來高	三〇〇石	二、〇〇〇斤	一〇、〇〇〇斤

公定相塲

豆	豆粕	豆油
—	—	—

大阪堂島米穀取引塲相塲

	寄	止
三月十一日（後塲）	—	止
三月十一日（本塲）	一五、九五	止

爲替相塲（十一日）名のみ

正金銀行

	賣	買
內地 軍票百圓ニ付	一〇五圓五〇	一〇七圓〇〇
上海	七一兩二五	七二兩二五
天津 銀百弗ニ付	一〇四圓五〇	一〇三圓五〇
芝罘	一〇五圓〇〇	一〇四圓〇〇

本埠通貨相塲

正隆銀行

	受	拂
銀貨百圓ニ付軍票	八九圓六〇	九〇圓五〇
金貨	九三圓〇〇	九五圓〇〇

過爐銀貨一兩ニ付軍票一圓三十七錢〇厘
郵便局軍票一圓ニ付金一圓五錢七厘

支那錢舖

	受	拂
大票	一一〇、五〇〇	一一〇、九五〇
小票百弗ニ付小銀貨	一〇九、八〇〇	一〇八、八〇〇
墨銀	一一四、五〇〇	一一三、五〇〇

御壽し 出前仕候
營口新市街花園街（電話一二九番）
菊水 楠意志子

日本酒 ケンビシ
奉天遼陽 池上出張所

旅館専業 北辰ホテル
公主嶺鮫島町停車場ヨリ後方約一町

各外價廉特爲買主不知識啓廣告
東青堆子新橋 淡谷木局 電話二百七十九番

鐵廠 川喜鐵工所 電話二五一番

營口分此 晏海樓番菜
英法大菜隨時便用 安寓洋華商官

氣象豫報 地方

南の風晴れ

昨日の氣温 最高四十三度、五 最二十七度、七
昨年との比 高二度、五 高〇度、二

大連孟家屯間（下り）	時分	時分
大連發	前 九、〇〇	后 六、〇〇
南關嶺	一〇、〇四	七、〇四
大房身	一〇、二三	七、二三
金州	一一、一六	八、一六
三十里堡	后 一、〇三	一〇、〇三

蓋平	前 九、三一	后 六、三一
大石橋着	一〇、二九	七、二九
大石橋發	一〇、五三	七、五三
海城	一一、二九	九、二九
鞍山站	后 一、一六	一〇、二六
遼陽	三、一八	一一、二八
煙台	四、二五	一、二五

開原發	后 三、五一	前 九、五一
昌圖	五、三五	一一、三五
四平街	六、四七	一二、一五
公主嶺	九、三五	三、二三
范家屯	一〇、五五	六、〇三
孟家屯着（上り）	一一、四九	七、三七

開原	前 六、二四	一二、〇二
鐵嶺	八、一二	二、四八
奉天	一一、四八	三、五一
蘇家屯發	一二、五一	五、二三
煙臺發	二、二三	六、二九
遼陽	三、二九	七、四八
鞍山站	四、四八	八、四八

得利寺	后 二、〇八	五、〇八
瓦房店	三、三九	六、三九
普蘭店	四、五九	七、五九
金州	七、五八	一〇、五八
大房身	八、一六	一一、一六
南關嶺	八、四八	一一、四八

蘇民屯發（上り）	前 一一、〇〇	后 八、〇〇
奉天着	后 二、一〇	一一、一〇
奉天發	前	后
蘇家屯	二、一〇	一〇、二八

營口大石橋間		
營口發（下り）	前 八、一五	后 二、一五
大石橋着	九、一〇	三、一〇
大石橋發（上り）	前 八、一五	后 二、一五
營口着	九、一〇	三、一〇

遼陽	六、一八	七、五〇
蘇家屯	八、一五	九、四〇
奉天發（上り）	八、一五	九、四〇
煙臺	九、五一	一一、二九
鞍山站	一一、四八	一、二二

營城子發	八、四〇	一〇、四〇
旅順着	一〇、〇〇	一一、一八
旅順發（上り）	前 七、二〇	后 一〇、四〇
營城子着	八、四〇	一一、五八

大連出帆

日本郵船會社瀛船出帆

●横濱丸 三月二十四日 門司宇品神戸行

大棧橋ヨリ發船可致候

日本郵船株式會社大連出張所（電話二一〇番）

大阪商船會社瀛船出帆

●開城丸 三月十六日正午門司神戸大阪行

●大仁丸 三月十九日正午門司神戸大阪行

●鐵嶺丸 三月二十二日正午門司神戸大阪行

大棧橋ヨリ發船可仕候

大阪商船株式會社大連出張所（電話二二〇番）

瀛船大連出帆

●穎朝丸 三月廿五日四時門司神戸大阪行

●神代丸 三月廿八日午後四時門司神戸行

松茂洋行 電話（五二、五七）

大連監部通二丁目 松茂洋行

尚乘船切符は御便宜の爲め當營口に於て賣捌候

自今前田九一郎ヲ以テ專屬大坂商船會社荷客取扱爲致候間此段廣告ス

三月 代理店 遠來洋行

前記ノ通リニ付御引立奉仰候 大和館主 前田九一郎

廣告

木材 石炭 大販賣

薪炭 白米

一委托販賣商

營口永世街 日陽商會 電話三一九

西洋料理と外國婦人のお酌

是迄第一奉天館にて旦那樣方の御贔負に預り候處今度左の處に移轉し御客樣方のお酌の旁ら目色毛色の變つたところを御高覧に供し候

奉天小西關南大十街 千〇五十四番 西洋料理館 外國婦人一同

齒科醫院開業廣告

從來當市に於ける齒科專門醫師の無之爲め該疾病患者の困難一方ならざりし處此度東都に在りて齒科專門學校卒業後大學病院に勤務せられ現に京都齒科醫學校校長と一て奉職中の高濃桂輔氏を聘し殊に新式諸器械を整備し三月五日より開業仕候なき治療可致候間此段廣告候也

二月 日 永世街森病院内 營口齒科醫院（電話一五五番）

三井物産會社營口支店

本店 東京市日本橋區駿河町壹番地

支店及出張所々在地 倫敦、漢堡、紐育、桑港、孟買、爪哇、新嘉坡、甲谷他、馬尼剌、香港、厦門、臺北、臺南、廣東、上海、漢口、芝罘、天津、京城、仁川及内地各要所

營口重盛街第十號 電話番號（六十六番）（九十一番）

滿洲各地出張所々在地 大連、安東縣、奉天、鐵嶺、寛城子、

○營業科目

一販賣部 大豆、豆粕、豆油、棉糸布、木材、銅、石炭、木炭、セメント、燐寸、麥粉、砂糖海參銃器諸器械各種金物其他内外國製品及原料販賣

一倉庫部 貨物保管（青堆子河岸電話番一二八番）

一船舶部 社内並社外船代理店

一保險部 明治火災 東京海上 日本火災 保險會社代理店

御料理開業御披露

拜啓餘寒今尚難凌候處各位益御清榮之段奉欣賀候陽降て弊園儀昨冬以來西門外新日本街朝日湯向前に新築中の處漸く此程落成仕候御座敷は悉く純日本式に器具等も皆新調致し殊に大廣間は御多人數樣御宴會席に適し御料理も原料を精撰し家中大車輪の勉強を以て御便利に差上可申候間永當〻御遊來の程偏に奉願上候

鐵嶺西門外新日本街朝日湯向前 醉花園

歐米諸雜貨

毛布手袋毛皮帽子類滋鉄鍋盆類洋燈双眼鏡文房具類

米國式ストーブ、蓄音機

以太利製香水石鹼刷子歯磨粉

獨乙製木工用鉄器圓木

椅子及上等葉卷紙卷煙草

各國名酒罐詰菓子類

米國製上等くム

德商 克隆元記

●自轉車 英國式快速車各種並燈空氣入外附屬品一切

一弊行發賣品は凡て歐米各國著名の製造會社と特約直輸仕候間品質優等價格低廉なり

一香港上海天津等に於て十數年來各位の信用を受け益〻繁榮に赴けり

一滿洲に於ける顧客の御便利を相圖り今般支店を奉天に開設せり

高等旅館 奉天小西關大街路北 茂林館（電話二十五番）

土木、建築、測量、圖案 石炭各種廉價販賣

今般新ニ熟練ノ技師數名ヲ招聘シ測量設計圖案等一般ノ高需ニ應シ可申候

營口新市街 飯塚工程局 電話一六五

仝 石炭置場 電話一一八

大連伊勢町 仝 大連出張所

奉天小西門外 仝 奉天出張所

鐵嶺高等御旅館 高砂ホテル

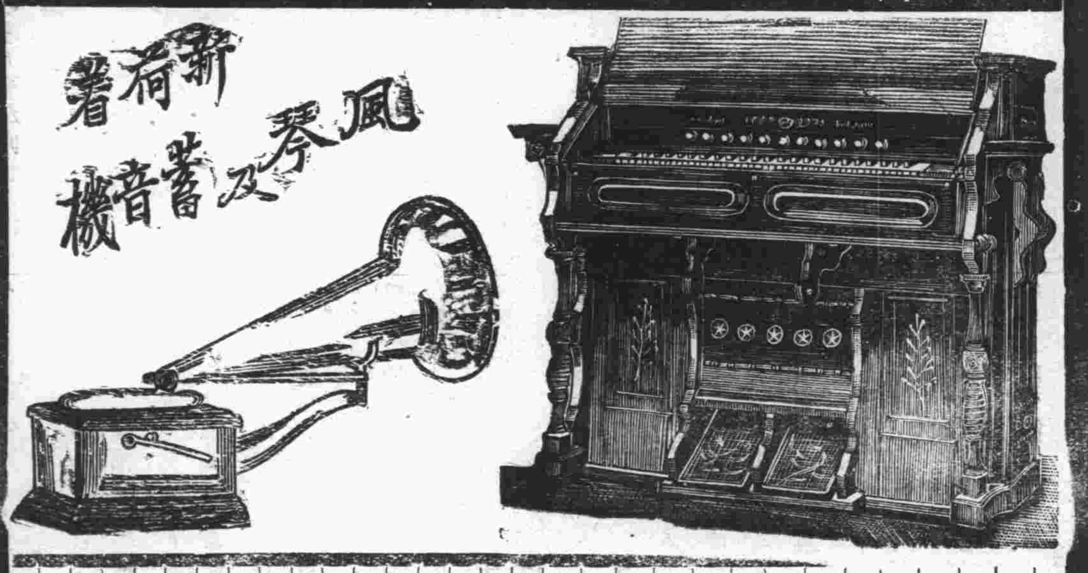
營口 加藤洋行

商店 營口 天津 北京

仕入店 大阪

電話八十番

新荷着 風琴及蓄音機



販賣品目錄

菊正宗 札幌麥酒 蜂印葡萄酒 孔雀印平野水 堀井謄寫版 森永製洋菓子 壺屋製和菓子 薔薇印歯磨粉 松田式織機 名古屋製時計 山葉製樂器 酒醬油味噌 洋酒類 埃及及葉卷煙 罐詰類 乾物 南産物 茶 菓子 和洋紙 反物類 西洋家具 荒物 陶器 漆器 硝子物 金物 靴鞄 美術品 其他色色

○銃砲火藥散彈各種
○建築用金物各種
○鐵工鍛工具及塗料
○木工土工石工煉瓦工具
○亞鉛板洋釘各種
○鐵針及ボールト
○ストーブ各種
○金庫及カン〻
○ショベル十字鍬鳶口
○一分間湯沸器各種
○カーネションクリーム
○万力○バルブ○スツパナ
○風呂焚釜及火焚口各種

宝 營口永世街 寶圓洋行 電話三二一番

料理 桝家 營口豊濟門街第四〇一號（電話五九） 格田まさ

雜貨商 大石橋 武田洋行

本店鐵嶺 支店公主嶺 くつ輪

二階座敷は鐵嶺唯一 溫泉は滴潔にして本店の特色 支店の室内は評判の美麗 御料理待遇は比類なき勉强

高等旅館 松華ホテル

位置 鐵嶺に於ける新日本町の稱ある中心にして尤も便利なる處

家屋 鐵嶺第一の全部日本式新築客室二十餘を有し器具の清雅は弊館の自慢

室内 鐵嶺唯一の東京式裝飾雜具に至る迄悉く新調優雅にして清潔他に比類なし

待遇 下婢は正直叮嚀店員は機敏忠實停車場へは常に出張お出迎手配萬端行届けり

鐵嶺西門外火神廟街

御旅館開業廣告

弊館儀今回室内改築の上純粋の御旅館開業仕り殊に御商人御婦人樣等一層叮嚀御便利に取扱可申候間永當〻御來泊奉願候

鐵嶺西門外新日本街 御旅館 鐵嶺館

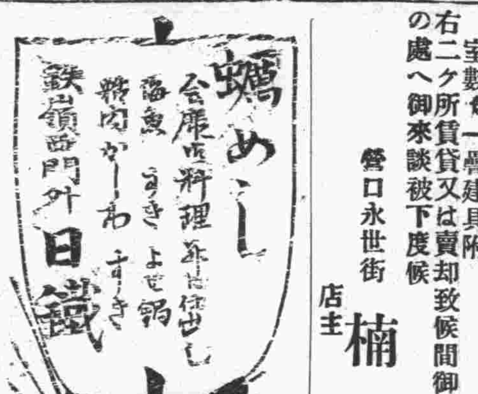
家屋賃貸又ハ賣却

一營口新市街 楠館 總坪數二百坪二階建疊建具外附屬品一切 電話（二五八）の設けあり 邸内の井水は尤も飲料に適す

一永世街一本町 楠屋 室數十一疊建具附

右二ヶ所賃貸又は賣却致候間御望の方は左の處へ御來談被下度候

營口永世街 店主 渡邊 楠屋



痔核 いぼじ

五個年の經驗に由り今回手術を要せず苦痛なく入院の必要なく唯一二回の注射にて速に全治するを保證す

梅毒 婦人科 外科 胃腸病 專門 日本醫院 入院隨意（電話二二七）

移轉

ペンキ塗受負 京阪組 營口新市街花園町十二號 電話三百五十八番

左記ノ處ニ移轉仕候間舊倍ノ御引立之程希願上候 尚左記品販賣致候

各種ペンキ 車軸油 テレボイル油 コールタン テレメン ワニス油 船來ペーパ 白絞油 光明丹 船來 ポテ各種 イナメル 其他塗料品機械油各種

◉宿料廉 萬事輕便ニ取扱懇切ニ客室ハ何レモおんどる内風呂ノ設アリ

奉天十間房 白井旅館

旅館

親切 叮嚀

鐵嶺西門外大通り 鐵嶺ホテル 館主 中野忠治

廣告

一木材 一白米 一石炭 一木 一生石灰 一無煙炭

殊ニ無煙炭ハ弊店特約品ニシテ火力强大且耐久力普通石炭ノ二倍以上ヲ有シ室内ヘ汚染セズ煙突掃除ノ必要ナク經濟上尤モ有益ナル事本品ノ特色ナリ

營口永世街 喜久洋行 電話（一五二）（三一四）

御料理旅館

日増に暖氣に相成皆々樣にも嘸かし麗はしく御暮し被遊候事と乍陰嬉敷喜び居候就而は私共久敷當梅園にて御引立を蒙り日々繁盛を加へ居り候處今回玉屋と改名仕從前の通り營業仕候間何卒舊に倍し御投宿御來遊の程奉希上候也

奉天小西邊門外 梅園改名 玉屋

小奴 梅子 艶子 お花 おとみ お手 玉子 外一同

購買入札公告

一支那煉瓦 壹千五百萬個

右購買す入札望の者は入札前日迄（執時務間内）當所に就き入札人心得書契約書案標本等熟覽の上三月十三日午前十一時限り入札すへし即時開札す

入札保証金は各自ヲ積價格の百分の五以上（圓位未滿は圓位に切上く）

物品納入場所 鐵嶺に於て官の指定する箇所とす此の契約は關東都督府陸軍經理部鐵嶺出張所辻村楠造擔任す

明治四十年三月五日

關東都督府陸軍經理部鐵嶺出張所

廣告

佐官用建築材料

カベ布海苔 ギンナン艸 苆類 色土 色砂 各種

右ハ廉價ニ發賣仕候

乾物海産商 營口永世街二本町入前 加賀藤洋行 電話三〇四番

旅館 永世街三十四號 大和館 店主 前田九一郎

御料理 營口新市街青柳町 翁亭事 瓢亭 古主 長谷川金次郎

料理 營口元神廟街 一力 店主 堀万助

旅館 營口元神廟街（電話一七八） 東京樓 館主 黒田彌太郎

臺灣彩票

見よ!!!富

●第四次賣出し

●開票三月卅一日

●當籤金五万圓以下 七千五百本

●彩票壹本賣價金六圓

●仝小口金六十五錢

●送料ハ書留郵税十錢ヲ要ス

滿洲一手特約販賣 大連、湖北、川漢彩票代賣所

營口西北街 裕□盛號（電話八壹）

會席 御料理 花月 奉天十間房

會席御料理 御宴會等には特に勉强可仕候 并に料理仕出いたし申候

營口新市街花園町 日本館（電話百三十） 各位樣

旅館專業 銀州館 鐵嶺西門外新日本街